

東海道五十三対



年未詳「(浮世絵など)」

松田三左衛門家文書 (当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)

解説

江戸後期から幕末にかけて隆盛を誇った浮世絵師の一流派を「歌川派」といいます。役者絵や美人画を数多く描いた人気絵師、歌川国貞(1786～1864)。武者絵やユーモアにあふれた戯画で知られる奇才、歌川国芳(1797～1861)。名所絵の巨匠として、「東海道五十三次」など風景画を数多く描いた**歌川広重**(1797～1858)。

3人はほぼ同じ時代を生き、同じ流派の中でお互いに競いあって、一流の絵師へと上り詰めていきました。

資料の注目ポイント

広重が天保期に発表した「東海道五十三次」は好評を博し、次々と五十三次物が出版されていきました。例えば国貞は、「東海道五十三次之内 (通称・美人東海道)」で美人と風景を取り合わせて描き、続けて役者絵を見立てた「見立役者東海道五十三次之内」などを描いています。

資料はこのような潮流にのって製作された「東海道五十三対」で、国貞・国芳・広重の合作です。この作品は「東海道五十三次」の各宿場を題材としていますが、宿場やその周辺の風景ではなく、そこに残る伝説や関係する歴史上の人物などが描かれていることが特徴です。

画像は「東海道五十三対」のうちの1枚で、国芳による「草津」です。草津は東海道の52番目の宿場である草津宿(滋賀県)のことで、承平・天慶の乱において平将門を討ち取った藤原秀郷にまつわるエピソードを描いています。

近江国瀬田(滋賀県)の唐橋には大蛇が横たわっており、人々は橋を渡れずに困っていました。そこに現れた秀郷は怯えることなく、大蛇を踏んで橋を渡っていきました。その夜、秀郷の元に女が訪ねてきて、三上山(滋賀県)のムカデ退治を懇願します。女の正体は琵琶湖に住む龍で、大蛇に化けて秀郷のような勇敢な人物がやってくるのを待っていたのです。秀郷は龍の願いを受け入れ、三上山のムカデを退治しました。そして、龍はその恩返しとして龍宮に秀郷を招き、たくさんの宝を贈ったといわれます。

なお、「デジタルアーカイブ福井」のリンク先では、「草津」以外も見ることができますが、残念ながら五十三次すべての宿場がそろっているわけではありません。また、この作品以外にも、浮世絵がいくつか収録されています。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「(浮世絵など)」	松田三左衛門家文書（当館蔵） 資料番号 A0169-03426	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 (草津) https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-327731-1-p29
福井県文書館月替展示 「桜 種まき うた うたげ」	「東海道五十三対」のうち、歌川国芳による「石薬師」を展示。	当館WEBにて公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/20170304AM/20170304.html

参考文献等

『歌川国芳 21世紀の絵画力』（府中市美術館 2017年 講談社）

『歌川国芳 遊戯と反骨の奇才絵師』（2014年 河出書房新社）

『福井県史 通史編4 近世2』（1996年 福井県）

『もっと知りたい歌川国芳 生涯と作品』（恵俊彦 2008年 東京美術）

東海道五十三対 草津 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1306879?tocOpened=1> （2018年2月18日閲覧）

浜松市立中央図書館 浜松市文化遺産デジタルアーカイブ https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Home/2213005100/topg/20ukiyoe_kaisetsu.html （2018年2月18日閲覧）

富士市立博物館 収蔵品紹介 <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/tp.php?id=81251> （2018年2月18日閲覧）